



小学生低学年の部 特選
勝山絢乃香（中川根南部小一年）
かたあしだちようのエルフ



小学生低学年の部 特選
中村りこ（中川根南部小2年）
とべないホタル



小学生 中学年の部 特選
坂下聖香（中川根南部小3年）
なきむしょにごっこ



小学生 中学年 の 部 特選
山本愛佳（中川根第一小4年）
マリと子犬の物語



小学生高学年の部 特選
宮島光樹（本川根小5年）
建具職人の千太郎

● 読書感想文特選作品紹介（抜粹）



と、かたあしでうごけないエルフですが、くろひようがとびかかつてきても、じつとがまんしさいごのちからをふりしぶって、たたかいます。くろひようはいためつけられ、にげていきました。かたあしのエルフがかつたのです。わたしは、このばめんをよんだとき、なみだがでてきました。みんなをまもるためにがんばるエルフは、ほんとうにゆうきがあつてつよいです。わたしも、エルフのようなこころがほしいです。

「ありがとうございます。」

小学生 中学年の部
中川根第一小4年 山本愛佳

マリと子犬の物語

中川根第一小4年 山本愛佳
マリと子犬の物語
「ありがとう。」
私のおじいちゃんとおばあさんがよく言う言葉だ。でも

「まりと子犬の物語」は、犬の好きな私に、親せきのおばさんがプレゼントしてくれたものだ。おばさんは、かわいがつていた子犬を亡くして、とても悲しんでいた。けいたい電話に写る写真をながめて、いつも涙を浮かべていた。そんなことを思いながらこの本を見るとマリが、「いつしょに遊ぼうよ！」と飛びついてくるような気がした。私は、わくわくしながら一気に読み進めた。

山古志村は、ニシキゴイや牛の角つき祭りで有名な、自然豊かな村だ。みんなが声をかけ合いい、助け合って生活している。私の住む川根本町とよく似ている。そんな山古志村で育った彩お母さんの顔を知らない彩にとってお母さんからの手紙は、

一つの宝物。それが「マリ」だつた。捨て犬だつたマリが家族になり、家の中が明るくなつた。
そんなある日、突然来た大地震。去年、私が体験した地震より、もつともっと大きな地震。家が崩れて下じきになつてしまつた彩とおじいちゃん。こわかつただろう。(だれにも見つけてもらえずに、このまま死んじゃつたらどうしよう)私は体がふるえた。

その時、鳴き声が聞こえた。マリだ!手足が血だらけのマリは、二人を助けようとガレキをほつた。二人を励まそうとほえ続けた。一晩中、ずっと。私も二人が助かるようないのつた。次の日、ヘリを見つけたマリが自えい隊を連れてきた時は、(これまでやつと助かる。早く!早く!)と心ぞうが止まりそうな

人が助け出された時は、思わず（ヤツター！）と叫んでしまつた。助かつてよかつた。生きていてよかつた。マリのおかげだありがとう、マリ。私は涙が止まらなかつた。

それなのに、命のくん人のマリを残して長岡市へひなんしなくてはならないなんて。彩はとても辛かつただろう。私も天國から地ごくに落ちたような、悲しい気持ちだつた。彩たちと別れ別れになつてからも、マリは助けてくれることを信じていた。食べ物もなくてやせ細つていつたマリだけど、小さな子どもたちを守りながら、ずっとずつと助かることを祈つていたと思う。だから、彩たちがマリと再会できた時、うれしくて思いきりマリをだきしめてやりたくなつたマリを助けてくれてありがとう

【第5回町民読書感想文・画コンクール特選作品紹介】

本があると、
The life having a book is pleasant
人生は楽しい



中川根南部小一年 勝山穂乃香
かたあしだちょうのエルフ
わたしが、このほんをよんでも
みたいな。とおもつたきつかけ
は、だらうのあしはふつう一
ほんのに、どうしてエルフの
あしはかたあしなのかな。と、ふ
しぎにおもつたからです。
だらうのエルフは、とても
こどもがだいすき。こどもたち
をせなかにのせてあそびます。
あるひ、ライオンがやつてきま
した。エルフはすぐにきがつき

いました。エルフはとてもゆうきがあるな。とおもいました。ライオンにひとりでたちむかつていくなんて、わたしにはとてもできません。

「すばいいぞ。エルフ」とみんながおどりあがつてよるこびましたが、エルフのたいせつなあしがいつぽんくいちぎられていたのです。とてもいたかつたでしよう。じぶんのあいぼんなくしてしまつたのですから。エルフはいたみをこらえ

といいました。わたしは、いたくてとてもそんなことばはないえないとおもいます。かたあしをなくしてしまつたエルフは、こどもたちとあそびことや、しごとができなくなりひつそりとくらすようになりました。こんどは、くろひょうがやつてきました。みんないつせいにげましたが、おくれたこどもたちがねらわれました。エルフは、

「わたしは、このばめんをよんだとき、なみだがでてきました。みんなをまもるためにがんばるエルフは、ほんとうにゆうきがあってつよいです。わたしも、エルフのようなこころがほしいです!」

本を読んで感動する…

それは、大人であっても子どもであっても
変わらなければ。

毎年、町民読書感想文・画コンクールには数多く出品があり、どの作品からも「空想世界」に思いをはせた様子が伝わってきます。そして、どんな「勇気」をもらったのかも…。本年度の特選作品を紹介します。



※感想文は抜粋して紹介。原文のまま掲載しています。